

平成 15 年 2 月 21 日

## 「じゅんかんプロジェクト 2 報告書」のあらまし

### 1 . 基本的な考え方

じゅんかんプロジェクト 2 は、資源循環型社会を目指すために、「家庭のごみを減らすにはどうしたらよいか」というテーマのもとに市民が集まった市民参加組織です。報告書は、「意識向上」「生ごみ減量」「容器包装減量」を中心に、プロジェクトメンバーのレポートや会議での意見から作られています。

報告書で掲げた考え方の全てが、メンバーの統一意見ということではありませんが、減量への取り組み方は様々あり、市民一人ひとりが少しずつできることから始めるよう努力し、継続することによってごみは確実に減っていくと考えます。

### 2 . 「意識向上」

ごみ問題は環境問題であり、グローバルに考えローカルに行動するべき問題です。私たちは、ごみに関する知識を広め、教え合うことにより、ごみを少しずつ減らしていくことができると考えます。

行政には、ごみの現状などの情報を市民にわかりやすく発信し続けることが求められます。「ごみ減量」の知恵が得られれば、近隣の仲間同士が一緒になって「ごみ減らし」を実行できるかもしれません。自治会やじゅんかんパートナーの方々と共に、ごみ減量のきっかけの場を多く作ることも大切です。

生産者や販売者には、ごみとなるものが少なくなるような商品への工夫が求められます。消費者も、すぐごみになってしまう製品は買わないようにしましょう。大人だけでなく、子供たちへの教育も欠かせません。次世代を担う子供たちの環境意識が向上し実践が伴うようになれば、親も変わっていきます。

### 3 . 「生ごみ減量」

生ごみを減らすための 5 つの原則を心掛けましょう。

- (1) 買いすぎない。調理くずや食べ残しを少なくするためには、安いからといって多量に購入し、結局ごみにしてしまうことがないようにする。
- (2) 作り過ぎない。食べ切れる量を作り、多い場合は保存方法も考える。
- (3) 調理を工夫する。ごみを少なくするエコクッキングの普及を図る。
- (4) 水分を減らす。生ごみを捨てる場合はひと絞りして水分を減らす。
- (5) 堆肥化する。生ごみの堆肥化には、コンポスト容器と生ごみ処理機があります。コンポスト容器方式は、住宅事情によって誰にでもというわけにはいきませんが、専用容器でなくても牛乳パックを利用する方法もあります。

#### 4 . 容器包装減量

容器包装の問題は、私達の生活様式だけでなく事業者（生産者、販売者）の考え方や行動とも密接に関連しています。事業者、消費者、行政が一緒になって、次のような対策に取り組む必要があります。

- (1) レジ袋を減量するため、マイバック運動などにより使用を抑制しつつ、回収方法や利用策を考える。
- (2) 食品トレイを減量するため、消費者、販売者が協力して「ばら売り」による購入、販売を進める。
- (3) 消費者は簡易包装の商品を求める。事業者は簡易包装に努める。
- (4) 容器包装を資源として循環させ、ごみにしない。素材の転換も訴える。

#### 5 . 再使用、分別

- (1) 再使用する。ものは一度で捨てずに、何回も使用してから捨てる。  
例えば、古着、古布は細かく切りキッチンに置き、油汚れや窓拭き床掃除に使えます。
- (2) ごみと資源を分別する。平成14年10月1日に12分別がスタートしました。分別細分化により、ごみに対する意識も高まっています。燃やすごみの量は以前の半分くらいになり、プラスチック製容器包装類の多さに驚いています。  
容器包装の素材が複合しているものなど、何のごみか分別に迷う物もあるので、家庭で分別の参考となる冊子があると便利です。

#### 平成14年度じゅんかんプロジェクト名簿

氏名	住所	氏名	住所
北村 亨	市川【座長】	佐藤 聡美	平田
吉岡 孝子	幸 【副座長】	島田 孝太	本中山（東高校）
井上 和子	東菅野	鈴木 菊子	末広
岩崎 恵美子	広尾	竹内 かほる	新田
宇田川みをり	菅野	中村 恭子	東国分
角田 千代	中山	橋本 進	妙典
加藤 清秀	北方	藤田 まさ子	稲越町
神林 裕子	南八幡		

じゅんかんプロジェクト2 報告書

< 家庭ごみ減量のために >

平成 1 5 年 2 月

じゅんかんプロジェクト2

## 目 次

1 . ごみの減らし方について考える .....	3
( 1 ) 私たちの生活とごみ減量	
( 2 ) 現状の課題、問題点	
( 3 ) ごみを減らす優先順位は3つのR	
2 . 意識を向上させていくには .....	7
( 1 ) ごみ問題と環境問題	
( 2 ) 情報を発信する	
( 3 ) 地域に入る	
( 4 ) 伝える手段	
( 5 ) 「無関心な人」分析	
( 6 ) 事業者と一緒に	
3 . 教育 .....	13
4 . 生ごみ減量 .....	15
( 1 ) 生ごみを減らす	
( 2 ) 買い過ぎない	
( 3 ) 作り過ぎない	
( 4 ) 調理を工夫する <エコクッキング>	
( 5 ) 水分を減らす	
( 6 ) コンポスト容器で堆肥化する	
( 7 ) 生ごみ処理機を使う	
( 8 ) 土に埋める	
5 . 容器包装減量 .....	21
( 1 ) 私たちの生活と容器包装	
( 2 ) マイバッグ運動、レジ袋減量	
( 3 ) 過剰包装	
6 . 再使用（リユース） .....	27
7 . ごみと資源の分別 .....	29
( 1 ) 分別を徹底していくには	
( 2 ) 12分別が始まって	
( 3 ) 収集回数、方法	
( 4 ) 指定袋	
( 5 ) イベントの時にこそ分別を	
8 . その他 .....	32
参考資料 .....	34

プロジェクトメンバーの意見から	
《 私は「ごみ係長」 》	6
《 地域をきれいにする 》	9
《 話し続ける 》	11
《 小さいときからの習慣 》	14
《 生ごみ回収 》	20
《 法律で規制する 》	23
《 スーパーマーケットと個人商店 》	26
《 使い切る 》	28
《 シェイプアップ市川市憲章 》	30
《 市民に説明を 》	31

## はじめに

「じゅんかんプロジェクト」は、平成13年度に市川市が策定した一般廃棄物処理基本計画「いちかわじゅんかんプラン21」の策定に当たって、市民の意見を計画に取り入れることを目的として構成された市民参加組織です。

平成14年度には、基本計画で第1番目の優先施策とされた「ごみの発生抑制、排出抑制策」について、家庭からの視点で意見を出し合う場として「じゅんかんプロジェクト2（市川市循環型社会推進懇談会）」が発足しました。

この報告書は、資源循環型社会構築を目指すための第一歩として、「家庭のごみを減らすにはどうしたらよいか」というテーマのもとに市民が集まり、議論した内容を「じゅんかんプロジェクト2報告書」としてまとめたものです。

ただし、この報告書にある様々な意見は、プロジェクトメンバーの統一意見としてまとめたものではありません。

なぜならば、ごみを減量するには、「こうしなければならない」とか「実行しなければならない」とか定めても、減量に熱心な方や無関心な方など考え方は千差万別であるからです。市川市民46万人には、世代や住まい方の違いだけでなく、環境意識の差があり、減量への取り組み方にも様々なスタイルがあってもよいのではないかと考えるからです。

プロジェクト2の会議では、メンバーから様々な意見が出されました。報告書で掲げた減量についての考え方や取り組みは、一人ひとりが少しずつ、できることから始めるよう努力し、継続することが大切であると考えています。

## 1. ごみの減らし方について考える

ごみは私たちが生活していく上でどうしても生まれてくるものです。しかし、ごみの減量は一人ひとりが小さな努力を続けていけば、確実にできると確信します。企業の努力ももちろんのこと、一人ひとりの対応が、ごみを減らし、地球をきれいにする第一歩となります。

### (1) 私たちの生活とごみ減量

経済社会が発展し、人々の暮らしが豊かになり、ごみも多くなり複雑になってきています。私たちは生活様式もそれぞれ異なっています。年代の差、ごみ問題に関心がある人、無い人、少人数家族等さまざまな違いがあります。このような違いや、いろいろな壁をのり越えるためには、市民の多数の方々に、これなら私もできるという減量策を行政や市民自らが提供すること、そして製造者、販売者、消費者、行政が連携プレーをしていくことが大切です。

ところで「ごみ」とは何でしょう。法律では、「不要になったもの」が「ごみ」の定義となっていますが、私たちは、特別無用な物を購入したり、過剰包装のものを選んで購入するわけではありません。ごみが、不必要な物だけに与えられる名称ならば、再利用したりリサイクルできる物は「ごみ」ではありません。

ごみは分別することで資源になります。ごみは分別によってかなり少なくすることができます。

ごみの減量とリサイクルは非常に密接な関係にあり、この二つを同時に達成させることは可能だと思えます。そのために、まず成すべき事は、一人ひとりに対する意識改革だと思えます。

家庭内でのリサイクルと、社会でのリサイクルが必要です。生ごみを肥料にするのも、個人では限界がありますので、今後は社会の仕組みがリサイクルを容易にできるような形になっていることも必要です。同じ捨てるのでも一度で捨てるのではなく、他にも使ってから捨てる。こういったアイディアは、皆さんの工夫を教えあうことで広がると思えます。集まった方法をできるところから実行したいです。

また、意識に訴えるだけでなく、数字で表現することも大事です。ごみの処理にどのくらいの税金が使われているのかななどを、数字で示したり、比較することができればわかりやすい。

しかし、言うは易し、行いがたし。一番必要なのは、できるところからねばり強く継続していくことかもしれません。

市川市は都心に近く、今後とも人口は減らないでしょうし、市内に最終処分場がありませんので、今後は一層、減量と戦う必要があります。

## ( 2 ) 現状の課題、問題点

ごみの問題は、衣、食、住に密接に関連しています。ごみが減らない理由は、いくつか考えられます。

仕組みに問題がある

- ・大量生産、大量消費のライフスタイルが続く限り、ごみの減量は期待できません。例えば、電化製品は修理するより新品の方が安い場合が殆どです。
- ・製品の製造者と消費者が、使い捨てを当たり前としています。
- ・地域清掃にがんばっている方や、エコロジーについて関心のある方には頭が下がりますが、やはり個人では限界があります。
- ・資源循環型社会を目指している市川市で、住民が直接的に資源循環に参加できる機会が少ない。
- ・情報が少ない。減量意識が欠如しています。
- ・市がクリーンセンターを作った時のごみの分別方法が時代に逆行していた。
- ・市川市のごみの減量化・資源化の取り組みは、大規模な処理施設か、民間回収を前提としており、コスト負担の上昇が避けられません。
- ・市川市の予算の中で、リサイクルを限り無く進めて行くことができるのでしょうか。

ごみの中味に問題がある

- ・市内の家庭ごみ排出量のうち約5割程度が台所の生ごみで占められていますが、その減量化は進んでいない。
- ・可燃ごみのうち、紙類に比べて、厨芥等のごみは量的にも比率のうえでも上昇傾向にあると推定されます。
- ・生ごみ減量策である従来のコンポスト化方式では、容器のスペースと定期的攪拌の作業が必要で、「臭い」「汚水」が発生し、一般家庭の取り組みの障害となっています。

### (3) ごみを減らす優先順位は3つのR

ごみの減量について考えるときに大切なことは、まず「発生抑制」、つまりごみになるものをできるだけ生産、消費、廃棄しないことです。このため、ごみ減量策としては、第1番目の「ごみを減らす方法」を優先的に考えるべきです。

第1に、ごみを減らす（リデュース：Reduce 発生抑制・排出抑制）

ごみになるものを買わない、もらわない

第2に、もう一度使う（リユース：Reuse 再使用）

ごみとして捨てる前にもう一度使う

第3に、リサイクルする（リサイクル：Recycle 再利用・再資源化）

使い道がなくなったごみは資源とする

しかしながら法律では、容器包装リサイクル法や家電リサイクル法など「リサイクル法」と呼ばれるものが多く、最も大切な発生抑制のための生産量を抑制する法律がありません。

大量生産、大量消費はそのままで、大量に出る廃棄物を再資源化のほうにどんどんまわすという考え方もあるかもしれませんが、しかし、例えば、古紙などは大量消費、大量リサイクルでは紙余り現象が生じたり、価格の変動によって再生紙の流通がうまくゆかなくなることも考えられます。

ごみを減らす優先順位は、第1にリデュース発生抑制、第2番目にリユース再使用で、コストの高いリサイクル再利用・再資源化の優先順位は3番目です。生産の段階で再利用を考えた商品を開発生産する。そして、消費者の側も、買う前に後でごみにならないか、過剰包装ではないかを考えて買う賢い消費者にならなければいけないのだと思います。

一方、リサイクルは環境に優しくないという考えもあります。ビン、カンを集めても石油やエネルギーを使ってしまい、廃棄物を作ってしまうています。リサイクルしているのだから良いことをしているという意識だけではごみは減りません。市民の意識を変えるには、ごみ問題に関心の無い人やできない人の意識を変えていくことも必要です。

そして一番大切なことは、今本当に必要であるのかを買う前に考えることと、大量生産、大量消費の時代は止め、循環型社会に戻さなくてはいけないのではないのでしょうか。

自分は家ではちゃんと分別しているので、ごみ問題なんて関係ないと思っている方もいらっしゃると思います。でも、自分だけがやっているから良いということではなく、皆で「意識を高め」、自分たちの社会を少しでも変えていかなければならないということを強く感じます。

今、ごみの中身をみてみると、大部分は「生ごみ」と「容器包装」です。

プロジェクト2では、「意識向上」「生ごみ減量」「容器包装減量」について、現状の課題、問題点を踏まえながら検討しました。

## 《 私は「ごみ係長」 》

私は、「ごみ係長」と自分で名乗り、ごみステーションに立っています。

出勤途中にごみ袋を捨てて行く方が多い。一番困るのは、若者です。しかし、私が、「おはよう」と大声で声をかけ続けると、今では素直に挨拶をしてごみをきちんと出せる若者が多くなり、とてもうれしく思います。

自治会、隣組にもっと働きかけて、いかにしたらごみを減らすことができるかを話し合う必要があります。

1時間ごみステーションに立っていると、多くの人と友達になり、色々教えてもらうことがあり、うれしい限りです。

また、人通りの少ない山道に不用になったごみをたくさん捨てる人にあきれています。「自分だけよければ他はどうでもよい。」そんな人と逢って話をしてみたい。

## 2 . 意識を向上させていくには

ごみ問題は、グローバルな目でみれば環境問題です。私たちも循環型社会を強力に推進できるように地球人として、環境を基本にすべての出発点があると自覚し、もう一度私たちのライフスタイルを見直す必要があります。そして、ごみに関する知識を広め、教え合うことにより、ごみは少しずつ減ります。

### ( 1 ) ごみ問題と環境問題

平成14年8月、国連の環境開発サミットが南アフリカ・ヨハネスブルクで開かれ世界180ヶ国の国々が参加しました。世界のあちこちで洪水、干ばつで苦しんでいる人たちがいます。サミットでは、地球全体の温暖化、都市の気温が異常に上昇するヒートアイランド対策の推進、また環境教育等さまざまな問題点が論議されました。

ごみ問題は、グローバルに考え、ローカルに行動するといわれています。

物や商品の流れを川にたとえれば、物は川上である事業者（製造者）から消費者である川下へと流れます。ごみの減量は、川上からも川下からも考えることが必要です。

そのためには、市民に情報を発信し続け、ごみの現状をお知らせし、状況を理解してもらうことから始めなければなりません。子供たちが将来にわたって安心して住めるようにするためにも、ごみの減量は21世紀の取り組むべき大きな課題の一つです。

### ( 2 ) 情報を発信する

市民にお知らせする事は山のようにあるのでしょうかから、優先順位を決めて集中的に知らせたら良いと思います。ごみは毎日発生します。知らないから自分のやり方で処理しているのです。なぜごみを減らさないといけないのかわからないと、減量や分別も進みません。

最終処分場を他市に依存している事も広報等でPRしてほしい。銚子市まで市川市の焼却灰を持っていっていることを知らない市民はたくさんいると思います。それを市民に知らせて行かなければならないと思います。

ごみ処理の現況を数字でわかりやすく示したり、野菜の残り、大根の葉、キャベツの芯などを利用するエコクッキングや、生ごみの有効利用などを広報等でどんどんアピールする。そして、どうしたらごみ減量ができるのかのヒントやアイデアを市

民から募集し、広報に載せると良いと思います。そうすれば「ごみ減量」の知恵を得て、近隣の仲間と「ごみ減らし」を実行できるかもしれません。  
他市の状況も知らせてほしい。例えば、市原市で採用しているレジ袋をごみ袋に利用する制度等、詳しい、正しい情報がほしい。  
分別したペットボトルが、どの様にしてリサイクルされ、どういう形になってまた私たちのところに帰ってくるのかも知りたい。

### (3) 地域に入る

地域に入ってやっていく

- ・町単位での環境スクールを開催し、「地球温暖化防止」「ごみの排出抑制・リサイクルの推進」「自然との共生社会」等テーマを決めて、なぜごみを減らさなくてはならないのか、根本の問題を市民になげかけ、一人ひとりがごみに対する考え方の意識を改革していく。そのための、きっかけの場を多く作ることが大切です。いくら良い案を打ち出しても市民の意識が低ければ計画はうまくいきません。少しずつ下地を作りながら実行していくことが良いと思う。

・セミナー形式で自治会や地域に講師を派遣し、ごみ減量の啓発を行ったらどうか。  
自治会を活用する

- ・自治会は12分別に真剣に取り組みました。自治会の役割は大きいのではないのでしょうか。自治会によっては、加入者以外にも今回の分別チラシを配りました。
- ・自治会の定例会は月1度あるので、そのときにごみ減量の話をする。1回だけでなく、シリーズ的にPRする。小さなグループでやったほうが効果があります。

じゅんかんパートナーを活用する

- ・じゅんかんパートナーは地域と行政とのつながりを持つ重要な役割があります。この制度をもっとPRしたほうがよいのでは。1自治会に1名配置できればと思います。
- ・現在のパートナー制度は、身近では機能していないのではという意見もあります。自治会単位で協力者を募り、それなりの権限も与えて、強力にごみ減量化を推進してほしい。最終処分を市外地に頼るとは言語道断。市民としても恥ずかしい。生活信条としてごみ減量、環境汚染防止に努めてきた者にとってはショックです。

### (4) 伝える手段

宣伝活動、啓発活動の継続的实施

- ・市民祭りでの展示、説明。展示会の開催。総武線中心の催し物開催が多いようなので、展示会のような催しは、北部と南部（行徳）の2箇所でおこなう。

- ・クリーンセンターの見学会を頻繁におこなう。
- ・各駅前などいろいろな場所でチラシを配る。
- ・市役所の車にごみ減量のステッカーを貼る。
- ・京成バス内の広告、コンビニを利用して多くの方へ知らせる。
- ・外国人にも知らせたい。大型ごみの外国語版がほしい。
- ・分譲マンションへの事前説明、不動産業へのPR、マンション、アパートを中心にローラー作戦の実施。
- ・独身者対策が必要。大家さんや不動産屋を通じて、ごみのわけ方、出し方を指導する。単身者の多く住む建物では、どうしてもルール、マナー違反が見られがちです。あまり深く入り込むと、プライバシーや人権問題になりかねませんが、最低限の決まりを守ってもらうに留めるか、あるいは、地域のお世話係りのような人を市で雇い、啓発に努めてもらう。
- ・ボランティア活動により、いろいろなことを実施していることを見せて、アピールする。市川もごみ問題について真剣にやっているなどと思わせる。
- ・市民から提案されたアイデアやヒントなどを、絵本のように楽しく読みやすい冊子にして、市民に配る。新聞折り込みは、大量にある他のチラシと混ざってしまい目立たない。広報も月4回になったら、2回のときよりも読まなくなった。
- ・ごみについての専用広報の発行。B5やA4判で単純明快に。市民に理解されるまでくり返し、啓蒙活動をする。何でも思ったこと、気づいたことはどどんプロジェクト係へ気軽に電話するようシステムづくり環境をつくる。
- ・学校教育を通じて、家族の中で意識を高める。ごみ処理場見学、作文コンクール、弁論大会、標語の募集等々。
- ・12分別が始まり、リサイクルしようにも大人でも判断しにくい物があり、子供たちに分別の種類を聞かれます。今のうちにごみに関する教育をする。
- ・環境問題に熱心な小売店やエコホテルのような事業者の事例を紹介する。

#### 地域をきれいにする

私は、毎日近隣の道路を清掃したり、自治会の集団資源回収の日には、カンやビンの整理をしています。その際、生ごみやセトモノ、穴のあいていないスプレー缶と一緒に入っている袋があります。

規則があっても守れず、“税金を払っているから当たり前”だ、という考えを持った人が多いのではないのでしょうか。

また、公園の前を夜通りかかった際、ごみ箱の中にビニールや紙、生ごみが散乱していました。主人を連れ一緒に整理しましたが、家庭ごみ、犬の糞が大量に捨ててあるのにびっくりし、常識のない人たちが捨てているのかと、腹立たしさを覚えました。

30年近く続けてきた体験から、ごみの減量や分別については、市とともに住民一人ひとりが真剣に考えていくべきことだと思います。

## (5)「無関心な人」分析

ごみ問題に無関心な人や減量の事を考えない人もいます。「ごみ問題に取り組めない人」はどのような意識なのでしょう。

- ・ごみ問題の中で何が一番問題かという、問題が深刻であるという実感があまりないということではないでしょうか。
- ・問題だといわれていますが、毎朝ごみはいくら出しても回収されます。商品にごみを減らす工夫をされたものはまだまだ少ない。現実の問題として実感できない人が多いのではないのでしょうか。
- ・ごみ問題を自己の問題と意識する人はさらに難しいでしょう。「私自身が何か協力しないと問題は解決しない」という切迫感はまったくありません。いくらごみを出してもとがめられません。自分たちが出すごみはささいな量であり、責任は感じられません。
- ・ごみ焼却施設は知らないところにあるし、ダイオキシン・環境ホルモンも目には見えません。その影響も受けていないように感じられます。どこか遠くで起こっている問題のように思われるのです。

そこで、無関心な市民とごみ問題の関心の距離を埋めることが大事になります。

- ・市としてはごみ焼却施設の見学会などを積極的におこなうことで、家庭から出るごみの行方について、市民が学べる機会を作ることができるのではないのでしょうか。
- ・ごみを減らす意義を感じられると、減量に対して以前より積極的に考えられるでしょう。
- ・また、ごみの収集や処理の労働環境を報告することも大事だと思います。今までこの辺りの情報はあまり報告されていません。働く方々への気遣いが、ごみの出し方にも反映する可能性もあります。

ただし、このような見学会や情報はもともと関心のある方が受けとめる場合が多いので、ごみ減量のためには関心の低い人へのアプローチが重要となります。そのためには「なぜ関心が低いのか？」というところから考え、同じ視点から取り組まねばなりません。

ここで原因を「モラル」としてしまう傾向が強いのですが、「モラル」を原因としてしまうことで「やる人」「やらない人」の溝が深まり、ごみ問題を複雑化しているのではないのでしょうか。

- ・例を挙げると、スーパーのトレイはリサイクルできますが、分別する人もいればそのままごみとして捨ててしまう人もいます。その違いは为什么呢。
- ・それは「リサイクルできる」ということに「価値を見い出すか」「価値を見い出さないか」の違いだと思います。簡単にいうと、捨てる時「もったいない」と思うか、思わないかの違いです。
- ・ではなぜ、トレイを捨てても「もったいない」と思わないのでしょうか。もし食べられるおにぎりを捨てたら、恐らくほとんどの人が「もったいない」と思うでしょう。しかし、トレイを捨てても「もったいない」と思う人は、おにぎ

りでそう感じた人より少ないでしょう。この違いはどこからきているのでしょうか。

- ・おにぎりは食べる事により自分で利用可能なため、「価値がある」と捉えることができます。しかし、トレイは商品に乗せる皿としての役目を終えると、自分で他に有効利用できないために、「価値がない」と捉えられる。
- ・「もう一度利用できない」=「ごみ」と捉えられるために、トレイをリサイクルしないということになるのではないのでしょうか。
- ・「モラル」の問題とすると、このあたりの心理の違いを見落としてしまいます。ごみ問題に取り組む際には、「やったほうがいいが、ごみ問題に取り組めない。」という方々も対象にして考え方を探っていく必要があると思います。そうしてそういう人でも取り組みやすい方策を市は練っていくべきであろう。

#### 《 話し続ける 》

私は毎月、公園の清掃のボランティアをしています。  
落書がひどく、消すのに大変なこともありました。  
しかし、近所の子供や若者に話し続けて行くと、地域が  
だんだんときれいになっていきます。まずこわがらないで、  
行動を起こしていくことが大事だと思います。  
学校でもそういった地球環境や地域環境の問題をもっと  
取り上げてほしいと考えます。

## (6) 事業者と一緒に

現在のごみ問題は「市民(消費者)」だけの問題とされがちです。分別やりサイクルは簡単なことではありません。むしろ大変です。とてもめんどくさく、精神的な負担があります。そのような負担を市民だけ担って当然なのでしょうか？ ここまで手間がかかる仕事を生む多様な商品を作る企業の責任は追及されなくていいのでしょうか？ 消費者の消費行動や行政の取り組みが企業の生産体系に影響を与える事は可能である。そのような力があることを自覚することが必要です。

市民(消費者)・企業(生産者)・市川市(行政)が連携して取り組むことが大事です。例えば、購入する商品には始めからごみとなるものをくっつけない工夫を企業に求めます。これなら何も考えずともごみの少ない商品を買うことになります。無駄な包装防止や詰め替え商品などを市も奨励していけば、企業も前向きに検討するでしょう。

特にコンビニエンスストアの取り組みは大きな効果が得られそうです。レジ袋の減量をお客さんに呼びかけているお店もあります。ただそれだけでも、レジで一言いうのは恥ずかしい人を励ましたり、レジ袋をもらってももらわなくてもどちらでもいい人に「もらわない」という選択肢を提供できます。

そして消費者もごみになるとわかるものは徹底して買わない。売れなければ販売業者も作らなくなるし、店頭に並ぶことはなくなると思います。私たち消費者も賢くなり、ごみを出さないことを意識して買い物すべきです。

市川市では10月から12分別がスタートしました。分別してみると、お菓子の個包装など個人ではどうしようもない物が山のようにあります。やはり、メーカーと消費者が一緒に考えなければ減らせないのではと思います。

購入する品物を吟味することにより、本来必要としているものと無駄な物を同時に手に入れなくて済むはずです。

企業も、商品が売れなければその販売方法を見直すので、草の根の力で徐々に、土に還る容器の使用拡大や過剰包装をなくして行く方向に持っていければ良いかと思えます。

企業でもISOを取得することが時代に乗り遅れないひとつの手段と言うことで、力を入れている様です。なお、それと同じようなことは、ごみのお目付役のいない家庭の中では、なかなか難しいことだと思えますが、「環境家計簿」に取り組んでみるのも意識の向上につながると思います。

### 3. 教育

今、街には物があふれ安く買えるからとあきたら捨て、少し古くなると捨て、ごみを増やすばかりです。今こそ原点に返り、物の大切さ、ありがたさについて今後を生きる子供と共に考え直す時期にきています。

ごみ問題は、まず「正しいごみの分け方、出し方」を体得することから始まります。小学生や中学生、あるいは高校生のごみに対する意識を高めることが必要です。帰宅途中飲み終わった紙パックなどを簡単に捨ててみたりする。周りの仲間がそうだと、ごみに対する意識を高く持つ人間は育ちにくいのではないかと思います。それは、小中学校や高校で、ごみやリサイクルをテーマとした授業や体験がほとんどなく、ごみに対する意識が育ちにくい教育をしているということもその原因ではないでしょうか。

学校と家庭と両方が各々の立場で子供たちに生活とは切り離せない「ごみ処理」についての関心を高めるのに効果的な施策を行政にお願いしたい。

そこで、小中学校の9年間はもちろんのこと、様々な社会問題を大人の視点から見つめられる高校でも、月1回、リサイクルの現場やごみ焼却場、さらには海辺などに行き、海水の水位上昇の重要性などの体験を子供たちに身をもって知ってもらうことが、ごみに対する意識の向上という点から見ても必要ではないかと思います。そのためには、地域の協力もそうですが、企業・商店との協力、また、大人と同時に、次世代を担う子供たちへの教育も欠かす事はできないのではないのでしょうか。時はまさにエコ・ブーム。学校でも環境汚染問題をテーマにしている所もあるので、まず子供たちから始めたらどうでしょうか。子供が変われば親も変わらざるをえないのでは。次代を担う子供たちの意識の向上と、実践が大切と考えます。

学校、幼稚園、保育園等公共の施設は市民の模範になるような徹底したリサイクルにのぞんでもらいたい。

また、移動環境教室という方法もあります。子供会などで紙芝居やわかりやすい実演などで、小さな頃から環境やごみ問題等に関心を持つことができたなら、昔の赤とんぼが舞い、ごみのあふれていなかった美しい街を取り戻せるのではないのでしょうか。

## 《 小さいときからの習慣 》

人々が動く要素としては、法によって規制される義務力と、いつの間にか身につけている習慣が大きなパーセンテージを占めていると思います。幼稚園や小学校の時から、例えば給食も家からマイ箸を持ってこないと食べさせないとか。少し無鉄砲に聞こえるかもしれませんが、習慣付けるということで多少強引でも徹底性をもって自分の習慣にしていくことが必要だと思います。

しかし、学校の指導だけでは習慣は身に付きません。やはり親の徹底性が絶対不可欠です。それには全国民が習慣付けなければならないという社会的な流れ、親への教育が必要となってきます。

## 4 . 生ごみ減量

生ごみ減量5原則	1 買いすぎない
	2 作り過ぎない
	3 調理を工夫する
	4 水分を減らす
	5 堆肥化する

### (1) 生ごみを減らす

生ごみは、調理のときに出る調理くずや、食べ残しにより生ずる残渣から発生します。そのため、生ごみ減量は、調理くずや食べ残しをなるべく出さないこと。どうしても残ったものは資源リサイクルとして利用することから始めます。

調理くずや食べ残しを減らすには、「買い過ぎない」「作り過ぎない」「調理を工夫する」「水分を減らす」の4つの原則が大切です。リサイクルには、「堆肥化する」ことが考えられます。これら5つの原則について考えました。

なお、「全て使い切る」ということも大切です。しかしながら、この考え方には2つの意見がありました。

意見1 できるだけ使い切る

- ・調理の工夫。野菜をなるべく捨てない。
- ・例えば、野菜の皮は油いためにしたり、漬物にして食べる。
- ・大根の葉も調理方法いろいろあります。葉物類をなるべくごみにしないで使い切る。

意見2 ある程度の廃棄はやむをえない

- ・生ごみで一番多いのは野菜くず、果物の皮等ですが、りんごの皮は1cm近くむかないと安全ではないという大学の先生もいるほど。食材の安全性と深い関わりがある。残留農薬の心配がある限り、ある程度の量はやむをえない(現在では、食材への信頼性が著しく失われている)。

### (2) 買い過ぎない

自分の家の必要量を意識し、安いからといって多量に購入し、結局ごみにしてしまうということのないようにする。

冷蔵庫の整理をこまめにする。空腹時の買物では買い過ぎないように。

食べる人数分しか買わないように心掛けている。

### ( 3 ) 作り過ぎない

食べ物を残さないように食べ切る量を作る。  
多量に作った物は保存方法を考え、食べ切るようにする。

### ( 4 ) 調理を工夫する <エコクッキング>

調理段階での配慮のほか、台所での気配り、買い物の心掛けなど環境に配慮して調理全般をすることで、エネルギーの無駄や、ごみを少なくしたりすることをエコクッキングと呼んでいます。

調理くずの量を減らすことによりまだまだ色々減らせるかなと思います。

- ・大根葉、皮、ブロッコリーの茎などは油炒めする。
- ・キャベツの芯などは味噌に漬けたりできます。
- ・半端な野菜は、細かく切り、酢をかけて冷蔵庫に入れると漬物になります。
- ・野菜が少しずつ残ったら味噌汁の具に。
- ・しなびた野菜は、煮るとおいしく食べられます。

エコクッキング献立例 (参考/地球にやさしいエコクッキング/第一出版)

- ・捨てずにもう一品献立 (生ごみを減らそう)  
残り野菜ポタージュ、紅茶クッキー、野菜のきんぴら、大根葉ふりかけ
- ・環境にやさしい献立 (排水等も汚さずに)  
キャベツとベーコンの卵とじ、さばの和風カレー煮
- ・節約献立 (食材や調理器具、時間、エネルギーを節約しよう)  
大根の皮干しきんぴら、鶏から揚げ、いわしの骨せんべい、  
ブロッコリーの茎の炒め物、大根葉のほろほろ

エコクッキングの普及

- ・楽しく工夫して作るエコクッキング等広報等で募集してもいいのではないか。(エコクッキングを見れば意識が出てくる人もいるのではないか。)
- ・エコクッキングや生ごみを減らすための工夫を、自治会等を通じて色々な方に、教わったり、教えたりする方法もいいのではないか。

少人数の家庭が増えているので、野菜とかは大きいまま売るのでなく、切って売ってもいいのではないか。

生ごみを減らす方法の一つに「ぬかみそ漬け」があります。研究する価値は十分あります。

## ( 5 ) 水分を減らす

誰でもできることとしては、生ごみを捨てる前にひとしぼりして水分を減らす。野菜くず、果物の皮等、乾かすと重さが減るので、晴れている日に少し乾かしてから捨てる。

減量策ではありませんが、使い終わったコーヒーの粉を生ごみにまんべんなく振り掛けると消臭効果があります。

## ( 6 ) コンポスト容器で堆肥化する

これまで、台所から出るただのごみでしかなかった生ごみを堆肥化してしまおうというのが、コンポストです。できあがった堆肥は、家庭菜園や花壇・プランター等の肥料として利用できます。

家庭で、カボチャやナス、枝豆、トマト、トウモロコシをすくすく育てている方もいます。もちろん米のとぎ汁もかけてあげます。

しかし、専用のコンポスト容器方式は、住宅事情によって誰でもできることではありません。また、途中で挫折してしまうこともあります。専用容器でなくても生ごみ堆肥化にはいろいろな方式があります。ある新聞記事には、発砲スチロール箱方式、密閉容器バケツ、家庭用生ごみ処理機、ミミズ箱方式が紹介されていました。ここでは牛乳パックを利用した生ごみコンポスト化システムについて紹介します。

### システムの内容

- ・家庭の台所から出る種々の生ごみ類(野菜のくず、魚のアラ、果物の皮、残飯)や卵のカラ等の水切りを十分行った後に、空の牛乳パックに八分目位まで詰める。
- ・詰め込んだ生ごみに堆肥化促進微生物(微好気性のものでEM菌など)の培養材=「ぼかし」(市販されている)を全体に混ぜてから、その上に庭土などをパックの口一杯まで詰める。
- ・生ごみを詰め込んだ紙パックを密閉状態にしたうえで庭、ベランダ、植栽の下などで直射日光が当たらない風通しの良い場所に紙パックを上下逆さまに置き並べて保管する。
- ・3~4週間位(季節により変動)経過すれば紙パックの中身が適度に熟成する。庭の植木、草花、公園・街路樹の植木、集合住宅の緑地帯の植木などの周囲に穴を掘って、パックから半熟成して堆肥化の進んだ生ごみを投入する。(自宅で実験したところ、肥料として大きな効果のあることが証明された。)

### 効果

- ・牛乳パックの利用によりコンパクトで小規模に実施でき、「臭い」「汚水」の発生もほとんどなく、一般家庭での取り組みが容易です。

- ・家庭から排出される台所の生ごみの大幅な減量が可能となり、可燃ごみの削減に寄与できる。
- ・大規模な資源化施設、民間の回収ルートに頼ることなく、住民一人ひとりが個人で実践できる。
- ・家庭菜園、庭の植栽、集合住宅や公園の植栽や緑地帯へ地球に優しい自家製の有機肥料を供給することで、身近な植物への関心と愛着が持てるようになる。
- ・資源の循環を個人で実践出来るので、国及び県が目指している資源循環型社会実現への第一歩となる。

#### 市川市の取り組み

- ・この生ごみコンポスト化システムの詳しいリーフレットと堆肥化促進培養材（ぼかし）をセットにして、ごみ集会、減量キャンペーンの会場に配布し、家庭での実践を宣伝広報と協力要請し、ごみの排出抑制の一助とする。
- ・市内スーパー、小売り店舗にて、堆肥化促進培養材の販売を要請する。
- ・市内農家の休耕田を所有者の協力を受けて、市民農園用に借り上げて、市民農園の区画を拡大し、市民の家庭菜園活動を推進する方向を同時に検討する。

#### 課題

- ・このシステムは、全市民が一斉に取り組める内容ではない。庭があるとか空き地があるとかの条件に適した世帯に限定される。
- ・生ごみの肥料化、コンポストによる減量と資源化には、排出者それぞれの事情と条件により、多様な実施方法があり、それに伴う多様な活用方法が見込まれる。
- ・生成された堆肥は、住民が知恵と工夫でその活用の方法を考えることを基本として、市は、方向付けと条件整備に重点を置き、あくまでサポート役に徹する。

## (7) 生ごみ処理機を使う

生ごみ処理機には、「バイオ型」と、「乾燥型」の2種類あります。

- ・バイオ型は、生ごみ処理機の中にチップ（オガクズ状の木材）を投入し、攪拌しながら生ごみを微生物の働きによって、水と炭酸ガスに分解するものです。
- ・乾燥型は、チップを使用せず、温風加熱によって生ごみを乾燥するもので、生ごみが2時間半から4時間程度で、5分の1から7分の1程度に減容されます。
- ・両方の機種とも、最後に残った「処理カス」は有機性に富んでいます。
- ・分別をしっかりとすることが大切です。
- ・魚の残飯は適していない場合があります。

生ごみ処理機の普及を図る。

- ・行政が自治会に対し、補助するように働きかけてもいいのではないか。  
（鬼高自治会では、自治会独自の補助制度がある。例えば6万円の処理機の場合、市補助2万円、自治会補助2万円、自己負担2万円としている。）
- ・行政がマンション等（大規模住宅）に生ごみ処理機を設置してもよいのではないか。

## (8) 土に埋める

庭がある場合は、生ごみを庭に埋めることにより減量できます。

畳半分から一枚の更地があれば十分。必要な道具はスコップひとつ。薬品も何も不用。直径30cm 深さ50cmの穴を掘って、生ごみを入れ、土をかぶせる。ただし、魚（骨）類は捨てないこと。犬、猫が掘り返してしまいます。

### 《 生ごみ回収 》

市民の生活様式さまざまです。例えば、コンポスト容器は住宅事情により置けない場合もあります。また生ごみ処理機を全家庭がつけることもできません。調理法を工夫して徹底して無駄を出さない、と言っても、これもできる人とできない人がいます。

このように考えると、できる人だけがやるというやり方では多少減っても全体的に大きく減らすことはできないかもしれません。生ごみを減らし、有効活用するためには、生ごみだけを回収する日を決めてこれを徹底リサイクルすることも一つの考えだと思えます。ヨーロッパでは実施しているところもあり、その他の分別もかなり進んでいるのが特徴です。

## 5 . 容器包装減量

容器包装の問題は、私たちの生活様式だけでなく生産者、販売者の考えや行動とも密接に関連しています。事業者（生産者、販売者）消費者、行政が一緒になって、次のような対策に取り組む必要があります。

- 1 . レジ袋を減量するため、マイバッグ運動などにより使用を抑制しつつ、回収方法や利用策を考える。
- 2 . 食品トレイを減量するため、消費者、販売者が協力して「ばら売り」による購入、販売を進める。
- 3 . 消費者は簡易包装の商品を求める。事業者は、簡易包装に努める。
- 4 . 容器包装を資源として循環させ、ごみにしない。素材の転換も訴える。

### ( 1 ) 私たちの生活と容器包装

物が豊富になり、本体以外の物の占める割合が多くなっています。例えば、食品を買うとほとんどがプラスチック製容器包装に包まれています。包装により見かけを良くした物や、利便性を重視するあまり買い物のあとですぐにごみとなるものも一緒に買ってしまい、多くのごみが出てしまいます。

トレイ、パック詰めの商品、ペットボトル等など、その量はますます増えています。しかし、見た目や、便利さは一度味わってしまうと、元に戻すのは大変な事だと思います。そのよさを上回る理由がないと、容器包装の減量はなかなか出来ません。その「上回る理由」というのは、人によって「環境」だったり、「お金」だったり、「感性」だったりするのではないのでしょうか。

容器包装減量のための行動として、マイバッグ運動（レジ袋の減量）と過剰包装対策があります。

一人暮らしの方へのお弁当配達も、使い捨て容器をやめ、業者が持ち帰り洗って使用するようになりました。

また、容器包装類は、資源としてリサイクルできるものがたくさんあり、ごみと資源の分別は、容器包装類をごみとせず、資源として循環させることができます。「混ぜればごみ、分ければ資源」です。

### ( 2 ) マイバッグ運動、レジ袋減量

「マイバッグ運動」は、スーパーや小売店でいつも渡される袋の減量化を促進させる運動です。品物を買ってもレジ袋を渡さずに、自分の家から持ってきたバッグ、つまりマイバッグに買った品物を入れるという働きかけです。

お店によっては、マイバッグを忘れた場合には、袋1枚につき5円で売るお店もあります。しかし、そのお金もまた植林や色々な国での緑化運動の募金として集めるお店もあります。環境のことを考えた制度であり、ごみの減量にも関わってくる問題です。

買い物袋持参者はだんだん増えているといわれるものの、スーパーでレジを待つ人、終わった人を注意して見ている、マイバッグを利用する人はまばらです。長い期間の取り組みが必要です。

#### レジ袋減量対策に関する提案

区分	内 容	
使用を抑制するために	マイバッグ持参運動を推進する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マイバッグ持参運動を推進、拡大する。主婦はもちろんの事、通勤している人もレジ袋をカバンの中、洋服の中にも折りたたんで持ち歩く。無くす事は難しいけれど減らすことは出来ます。</li> <li>・マイバッグ運動を実践しているお店では、お客様に説明すると、一度ではお互いに不愉快な思いをする事が多いですが、回を重ねると持ってきてくださる方も増えてくるといいます。</li> <li>・一店では難しいので、市内全店がマイバッグ持参運動を展開すれば、ここはサービスが悪いと言われなくなります。一斉にやる方がやりやすいです。</li> <li>・マイバッグ持参のポスターの掲示。小・中学生が書いたポスターを店頭で掲げてもっと訴える。市でもポスター等で宣伝する。</li> <li>・各スーパーの袋別にしておいて、そのお店に行くときはそのレジ袋を持って行く。</li> <li>・「マイバッグ、マイお箸、マイ風呂敷の3Mでごみの減量」という運動にも取り組みたい。買い物袋を持参する「マイバッグ運動」だけにとどまらず、自分のお箸を携帯する「マイお箸運動」、さらに「マイ風呂敷」「マイナフキン運動」が活性化されることに期待を寄せます。</li> </ul>
	ポイント制とする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商店でマイバッグ持参者には、商品券引換え用のポイント券を配布する。</li> <li>・ポイント券が各店まちまちで統一されていないのは煩わしいので、市内共通のポイント制とする。</li> <li>・ポイント券はシール制、スタンプカード式、あるいは名刺大サイズの券とする。</li> </ul>

	レジ袋を有料化する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レジ袋は、清算料金に加算するなどレジ袋を有料化する。(一部小売店では実施済み。)</li> <li>・例えば大中小の3種類の袋を6円、4円、2円などとする。なお、近所のスーパーでは有料化を既に実施している(1枚10円)。お客さんはほとんど買っていない。</li> <li>・ただし、5円、10円などはいくらでもない。お金払えばいいんでしょ、という風潮を生みかねないかもしれない。</li> </ul>
使用を抑制しない場合	商店で回収	<ul style="list-style-type: none"> <li>・販売店の責任により、回収ボックスを設置して、回収し資源化する。(市川市のプラスチック製容器包装収集とは別に、並行して実施)</li> </ul>
	家庭で回収	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンビニ、スーパー等のレジ袋=指定ごみ袋としての使用を認める。</li> <li>・指定ごみ袋を画一化せずに規格の緩和と、多様なデザインを認める。</li> <li>・指定ごみ袋は、全て透明として、広告の刷り込みを認める。</li> </ul>
併用実施		抑制しつつ、回収し、かつ転用が図れるようにする。

《 法律で規制する 》

私はマイバッグ運動を国会に法律という形で提案することを望む。人の心や常識の範囲内でこのシステムが全国に導入されれば好ましいのだが、実際にそれだけで動く人々は少ない。やはり、何らかの罰や、国の援助がなければこういったシステムが全国に導入されるとは考え難い。

ごみの減量化という点だけを考えると、そういった強引さが必要になってくることは間違いない。

### ( 3 ) 過剰包装

容器包装の問題は私たちの生活様式だけでなく生産者や販売者の考えや行動とも密接に関連しています。容器包装に関する意見として次のような意見があります。事業者、生産者との協力が不可欠

包装廃棄物の発生抑制は、個人の力で減量したり、リサイクルしていくのが難しく、限界がある。生産者、事業者と一緒にになって取り組まなければならないと思う。

消費者の声

- ・例えば、スーパーでお刺身を買うとき豪華な絵皿に盛られています。食べる時は別なお皿に移して食卓に出しますので、もったいないなあと思いながらごみになってしまいます。
- ・野菜などもトレイに盛られその上にラップがかけられていたり、全てがごみになるのと思いながら一人ではなかなか勇気が無く言えずにいます。
- ・私は、野菜はトレイに入れず一個ずつのばら売りにし、お刺身はお皿を持っていくのは大変なのでタッパーを用意しそれぞれが買い物袋を持参するようにすることができたらどんなにごみの減量につながるだろうと思っています。
- ・ばら売り、量り売りのものを買う。なす、きゅうりなど野菜には容器包装はいらないと思う。
- ・過剰包装の商品は解体して販売店に置いてくる。

お店の事情

- ・「ばら売りをする」などの意見がありますが、奥のほうまで探している方がいて、品物が傷むので店の方はそういうのは困る。
- ・また、ばら売りはそれに対する店舗側の人件費もかかる。中身の調合具合への苦情防止など、トレイはトレイでいい面もあるのが事実。衛生面での問題が発生した場合、店舗側の責任になる。
- ・魚は、ばら売りすると傷がついて売れ残りとなる。
- ・レジでのバーコード方式の清算スタイルが続く限り、トレイは必要か。
- ・簡易包装化は、小売店が一斉に実施しないと、実施店舗にばらつきがあるとお客が逃げるのでは、という懸念もある。
- ・いかにして見た目をよくして売るか、それが小売店の戦略となっている。
- ・また、パッケージデザインは製造者がリサイクルしやすいように考えてほしい。
- ・包装材も企業の販売戦略。包装材のいいものが良く売れる。何も包装しない物を買うのは、買う側の意識の高い人。個包装は衛生面、安全面を売る企業のイメージアップとなっている。水分が漏れないようにした二重トレイもある。
- ・サービス品として提供するポリ袋やお箸は、顧客はためらわずにもらっていく。

## 食品トレイ減量対策に関する提案

区分	内 容
使用を抑制する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代替トレイ（米ぬか、経木、口ウ引き厚紙を材料とする容器）の普及と拡大を図る。</li> <li>・包装材の素材の転換が必要。木や紙製品など、原料として再生可能な商品を選ぶ。石油からできているプラスチック製品よりも木材や紙製品の方が生産可能な資源である。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル店舗の設置 皿売り、カゴ売り、バラ売り、グラム売りをする店舗をモデル店舗として指名。モデル店舗の情報を提供。店舗の普及と拡大を図る。市内の各分野の販売団体と協議し、その協力が必要となる。</li> <li>・価格にはトレイなどの包装の代金も含まれるはずであるから、包装がない方がお得であるという販売キャンペーンを実施してもらったらどうか。</li> </ul>
使用を抑制しない場合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・店舗内で分別減量化が図れるしくみを奨励し、拡大を図る。レジを通過後に分別減量コーナーを設置し、お客の便宜を図る。コーナーには水道、流し台、テーブル、分別容器（トレイ用、ラップ用、その他）を設置。客はコーナーにて不要なトレイ等を外して、洗って分別用容器に仕分ける。</li> <li>・ただし、店舗内での水道、流し台付の分別コーナー設置を奨励するという意見に対しては、不要な容器はスーパーに置いてくるという考え方は、はっきりと意思表示しないとスーパーにごみを捨てていく、ただの利己主義とも見えてしまう、という意見や、</li> <li>・レジ後に廃棄する人は意識の低い人。意識の高い人はきちんと洗って持ってくる。という意見もある。</li> </ul>

### カサを減らす

- ・容器包装はかさばって置き場所に困りますので、小さくすることによりある程度ためることができます。
- ・カンは、できるだけつぶす。
- ・ペットボトルは、フタを外し、つぶす。または、縦に切って重ねる。
- ・トレイは大きさ別に重ねる。または、細かくちぎる。

## 《 スーパーマーケットと個人商店 》

独身の頃はごみ問題にそう関心の無かった私も、結婚し、子供が大きくなるにつれ「食」の部分での不必要なものに疑問を持ち始めました。スーパーできれいに並べられた食品を買うのは、もはや当たり前となっていますが、トレイが大量に出してしまうので困りました。

そこで、買い物を変え、個人商店での買い物を増やしてみました。すると、確実にごみは減りました。あるお店では、店主が「昔はみんなこうだったんだけどねえ」と、新聞にくるまれた大根をさし出してくれますし、地域の様々な話も聞けるというおまけもついてきます。

私たちは、便利さを求めるあまり、多すぎるごみを生み続けています。もう少し長い目でゆとりの心を持った生き方が出来るようになれば、ごみ問題も更に違ったものへと変わって行くことでしょう。

## 6 . 再使用 ( リユース )

物は一度で捨てずに、何回も使用してから捨てるようにすることにより、ごみを減らすことができます。

ご家庭での取り組み例を紹介します。

### 布類

- ・古着、古布は細かく切りキッチンに置き油汚れや窓拭き床掃除にと大活躍しています。
- ・油たっぷりのお皿を洗う前にぼろ布で拭いたり、アクリル衣料で家の中を掃除したり、丈夫そうなコットンはパッチワークや小物作りの材料になります。手芸品以外のものは使用後ごみ袋に直行ですが、手間のかからない一石二鳥という感じで、気に入っています。
- ・リフォームする。

### ペットボトルやトレイ

- ・ペットボトルやトレイなどは「家庭内資源」として子供たちの工作に使われ、古着は掃除用のウエスや古ストッキングを活用したホコリ取り等に生まれ変わっています。他にも、フリーマーケットやリサイクルショップの利用も忘れません。他人にはごみでも、我が家で重宝するものは意外とあるものです。
- ・洗って何度も使う、植木鉢の水遣り、水を入れてダンベル、お湯を入れて急病人の湯たんぽに。

### 牛乳パック

- ・油を拭いたウエス捨て容器
- ・トイレ・風呂場のごみ捨て容器
- ・人に草花をあげる時の持ち運び容器
- ・パウンドケーキの型

### 箱類

- ・ティッシュ箱は、カセットテープケースやウエス入れ
- ・切ってカードの表紙
- ・子供に厚紙として学校用に

### 野菜のネット

- ・園芸球根保存用、植木鉢の底網、土を入れてハンギング

ごみとして出された書籍や雑誌で「マンション文庫」が出来たらいいと思っている。不用品の交換会、いわゆるガレージセールもごみの減量に役立つと思います。

《 使い切る 》

私の母は今でも、古くなった洋服でベストやパンツなどに作り直し、それもだめになるとぞうきんにして形が無くなるまで使います。スイカを食べると青い所は漬物にし、何でも無駄なく使いきる母を子供の頃はケチなのだと思っていましたが、それは母なりの資源循環であり、ごみの減量だったのだと思います。

## 7 . ごみと資源の分別

平成 14 年 10 月 1 日に 12 分別がスタートしました。分別細分化により、ごみに対する意識も高まっています。しかし、何のごみか分別に迷う物もあります。家庭で、分別の参考となる冊子があると便利です。

### ( 1 ) 分別を徹底していくには

1 2 分別により、今まで燃やしていたものがリサイクルに回り、燃やすごみの量はかなり減ると思います。ですが、市民の方々全員に浸透するのは時間がかかると思います。様々な考えの人がいて面倒くさいとか、洗う手間がかかるとか、単独世帯の方で決められた曜日に出せない人等、理由はいろいろあると思います。

そのため、ごみの分別を意識していない人に、どう意識してもらえるようにするのが一番の課題と言えます。

なぜ 1 2 区分に分けるのかということがわからない人が多いのではないのでしょうか。ごみの分別の必要性をもっと広く強くアピールすることが大切だと思う。

家庭でできることは、まず自分の家の中でルールを作って守ること。それと、公共の場で協力すると言うことだと思います。「無理のない」方法で多少の事には目をつぶる形での（プラスチックでも燃やしてしまうとか）処理も必要かと思います。ごみを出す側の思いやり。収集する人たちがきちんと作業しやすいように出すのが最低限のマナーです。

さらに、分別されたものをリサイクルしていくのも簡単ではありません。大変な人件費や時間がかかったうえ、不純物が混じっているので、再処理化するまで手間と費用がかかります。

### ( 2 ) 1 2 分別が始まって

1 0 月からの分別により、居住しているマンションのごみ集積所に出される燃やすごみの量は、以前の半分くらいになっているので、分別が行われているものと思われます。

プラスチック製容器包装類の量の多さに驚いています。各包装には、どれも見事にプラのマークが印刷されていました。思わぬ物までプラスチックできていて化学の素晴らしさに感心してしまいました。

近所の人たちとペットボトル分別について話し合ったおり、子供がマークを覚え得意そうに教えてくれるそうです。一週間で 4 5 リットルの袋がいっぱいになります。生ごみは減りました。ただ、容器類を洗うのに水を使うため環境汚染につながるのではと心配の声があった。

分別を環境問題の一つとして考える時、行政側としての指針が欲しい。例えば、ごみとして出して良いのか、流して水を汚してよいのか。油や汚れを拭き取って、ごみとして捨てると、それだけごみの量が増える。現状では、市川市として、どちらを優先させてほしいと思っているのか知らせるべきです。

また、容器の素材が複合しているため、何に分別したらよいのかわからない物もあると思います。生産者に改善してもらう必要もあります。

なお、天ぷらの油とかも行政で資源として収集したほうがいいのではないかと。他市では行なっているところがあります。

### (3) 収集回数、方法

生ごみの収集日を減らしてプラスチック製容器包装の日を一日増やしたほうがいいのではないかと。(月曜日にプラスチック製容器包装の収集になっているところで、マンションからの苦情が多い)

燃やすごみの収集曜日を一日減らしても良いと思う。あるいは、冬は週2回、夏は臭うので3回としてもいいのではないのでしょうか。

飲料水用のペットボトルは別に回収できないものでしょうか。全体の半分以上を占めているようです。他市のようにカラスネットの様な袋を置き自由に入れる。他の物と一緒にでは汚れが付着したり、また洗剤、水もたくさん使う。能率が悪く、質の良い樹脂を作るには分別が必要と思う。

#### 《 シェイプアップ市川市憲章 》

- ・ごみは永遠の課題です。
- ・減量と分別収集、各自徹底実行から。
- ・決められた時間  
    決められた日(曜日)  
    決められた場所へ 出しましょう。
- ・継続は力です。
- ・皆さん市川市から全国に循環型社会を発信してみませんか。

やりましょう—— 出来ます !!

—— さあ 今から ——

#### ( 4 ) 指定袋

##### 燃やすごみ用

- ・ 1 2 分別により、生ごみが少なくなったので燃やすごみの指定袋も小容量の袋が必要になるのでは。
- ・ 指定袋の小さいのは 1 5 リットル入りですが、1 0 リットル、5 リットル等は製造の対象になりませんか。

##### プラスチック製容器包装用

- ・ プラスチック製容器包装類の量は世代(年代別)によっても違ってくるのですが、「指定袋が大きいものしかなくて、満杯になるまで家に置くのが不都合」との意見があります。今後、改善の必要性があるのでは。

#### ( 5 ) イベントの時にこそ分別を

P R 方法として、展示会だけだとなかなか分別できないと思います。家庭では分別している状態なので、お祭りとかみんなが集まるところで分別してもらったほうが P R になります。模擬店とかに協力してもらい、また、ごみ箱の近くに人が立っていて、その場で指導していけば P R になるのではないのでしょうか。

#### 《 市民に説明を 》

1 2 分別のパンフレットを見ると思ったより簡単で、これなら私にもできると思いました。これからも常に将来を目に見える形で市民に説明してもらいたいと思います。

ただし、材料が複雑で何のごみかわからない物もありますので、生産者に改善してもらう必要があります。

## 8 . その他

家庭での減量策ではありませんが、経済的な誘導手法やその他の意見がありました。

### ごみ収集有料化

ごみ袋の料金に大小の差をつけ、一度に出せるごみ袋の数は2個までとする。例として、小さいごみ袋は5円、大きい袋は1枚40円位とし、ごみを減量するほど袋代はかからなくなります。

ごみ処理の有料化は問題です。レジ袋もちゃんとお金を払って持っていきます。お金を払えばいいんでしょ、という考えになってしまいます。面倒なことはお金で処理が今の生活様式を生み出しています。お金で替えられない物がある事を子どもにも、大人にもわかってほしいです。

将来的にはごみの有料化もしょうがないと思うが、反発はすごいと思う。(その前にまだやることはあると思う。)

指定袋には大中小の価格の差を極端に大きくするのはどうか。現在は余り差が無いので「大は小を兼ねる」と大きい方を買うのは当然。そして何を入れても持って行ってくれるから、住民には全く危機感が湧かない。もっと行政側は積極的に現状を市民にアピールして指導すべきだと思う。

レジ袋の減量対策で透明なレジ袋なら10円とかのシールを貼って、ごみ袋で使えるようにしたらどうか。

### デポジット制

デポジット制のようにするのが一番だと思います。ある高校では缶のデポジット器械があり、生徒が小遣い稼ぎに缶をたくさん持ってでも電車に乗って行ったとの事です。一つの市でできる事ではありませんが、市川市から社会に訴えていく姿勢が大事だと思います。(デポジット制：例えば飲料容器に預かり金を上乗せして販売し、中身が消費されて不要になった際に、消費者がその容器を所定の場所に返却すれば、預かり金が返却される制度)

### そのほかの意見

外出先で出たごみは基本的に持ち帰る運動の推進。

自分のごみに責任を持つという事で、各家庭の前に完全戸別収集とする。

集合住宅の場合ですが、記名式にし、記名の無いものは収集しない。プライバシーの侵害との反論が出ると思いますが、そこまでしなければいけないのだという現状を訴え、マナーが向上したら元に戻すということにしたらいと思う。

#### 集団資源回収の拡大

子どもたちへの環境教育の一環として、資源回収を進めた方がいいのでは。

燃やした灰までとにかく徹底したリサイクルの実施、これが重要だと思う。例えば燃やした灰は埋めずに、レンガとか他の物に利用する方法も一つだと思う。ただコストの面とか販売等で問題はあると思うが、なんとか灰もリサイクルできたら良いと思う。

## 参考資料

### 【じゅんかんプロジェクト2のテーマ】

市川市一般廃棄物処理基本計画（いちかわじゅんかんプラン21）において第1番目の優先施策とされた「ごみの発生抑制、排出抑制に」ついて家庭からの視点や工夫、アイデアを検討しまとめる。

### 【名 簿】

（あいうえお順）

氏 名	分 科 会	備 考
井上 和子	生ごみ減量	
岩崎 恵美子	生ごみ減量	
宇田川みをり	生ごみ減量	
角田 千代	意識向上	
加藤 清秀	意識向上	
神林 裕子	容器包装減量	
北村 亨	容器包装減量	座長
佐藤 聡美	容器包装減量	
島田 孝太	意識向上	
鈴木 菊子	意識向上	
竹内 かほる	容器包装減量	
中村 恭子	容器包装減量	
橋本 進	意識向上	
藤田 まさ子	生ごみ減量	
吉岡 孝子	意識向上	副座長

## 【活動状況】

年 月 日	内 容	場 所
平成14年 8月28日	第1回会議	市役所委員会室
9月25日	第2回会議	市役所委員会室
10月23日	第3回会議	市役所委員会室
10月26日	市内清掃関係 施設見学	・市川市クリーンセンター ・プラスチック製容器包装中間処理施設
11月20日	第4回会議	市役所委員会室
11月21日	市外清掃関係 施設見学	・銚子市一般廃棄物最終処分場 ・茨城県波崎町ペットボトル再商品化工場
12月18日	第5回会議	中央公民館会議室
平成15年 1月29日	報告書作成検 討会	市役所委員会室
2月12日	第6回会議	中央公民館会議室
2月21日	市長に報告書提出	

